

あづま総合運動公園 いちょう並木

## も く じ

- p. 2 大腸CT検査ってどんな検査？
- p. 3 転倒転落予防に向けた取り組み  
－転倒予防指導士の資格を取得して－
- p. 4 認知症マップって知っていますか？  
編集後記

公立  
藤田総合  
病院

## 理 念 ・ 基 本 方 針

### 私たちは、患者さん中心の医療を行います

- ◆私たちは、地域社会との連携を図りながら、地域の人々の医療・保健・福祉の向上に貢献します。
- ◆私たちは、医療水準の向上に努め、患者さんに良質で安心できる医療を提供します。
- ◆私たちは、健全な経営に務め、活力に満ちた働きがいのある病院を目指します。

●紙面に掲載されている内容・写真等を目的外で使用したり、複製・印刷する事を禁止します。

# 大腸CT検査ってどんな検査？

大腸の検査において、従来は便潜血検査や大腸内視鏡検査が行われておりましたが、近年CTでも検査が可能となりました。大腸CT検査（CTコロノグラフィー）は、大腸を炭酸ガスで膨らませた状態でCT撮影を行い、作成した三次元画像から診断を行う検査です。

## こんな方におすすめ

### 内視鏡検査に抵抗のある方

大腸CT検査は、大腸内視鏡検査と比べ、痛みを感じる事が少ないとされています。

### ご高齢の方

CT撮影時の体位変換や苦痛が少なく、楽に検査が受けられます。

## 大腸CT検査の流れ

### 前処置

検査前日より検査食や下剤などを服用いただき、腸内をきれいにします。



検査食と下剤

### 炭酸ガスによる大腸の拡張

炭酸ガスを専用機器で肛門から注入して大腸を拡張させます。



専用機器

### CT撮影

基本的にはうつ伏せと仰向けの2体位撮影します。時間は20分くらいで終了します。



撮影の様子

## 検査後

大腸CT検査後、撮影したCT画像を活用して大腸の3D画像や仮想内視鏡画像など様々な画像を作成して診断します。

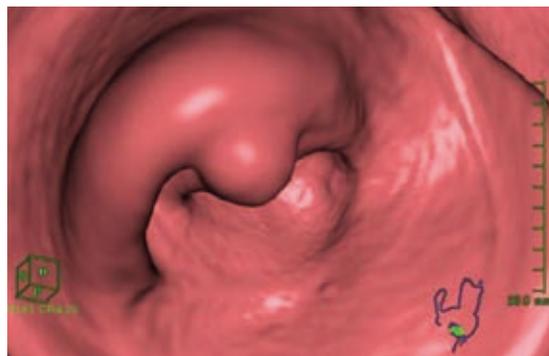
【概算医療費】3割負担の方：約5,000円 ※2024年11月時点の医療保険適用費用です



位置決め画像



大腸3D画像



仮想内視鏡画像

# 転倒転落予防に向けた取り組み —転倒予防指導士の資格を取得して—

転倒転落対策チーム・転倒予防指導士・看護師 齋藤 弘 恵

私は、全国の病院関係者が集まる日本転倒予防学会の講習会に参加し、転倒予防指導士の資格を取得しました。転倒に関わる学術的研究を推進すると共に、転倒予防に関わる情報を整理し、社会に「転倒に対する正しい知識と経験」について広く啓発活動を行い、学術の発展とともに人々の健康増進に寄与する役割があります。先日、上皇后美智子さまが庭先で転倒し、大腿骨の骨折のため手術を受けたニュースがありました。骨折の原因としては、骨粗しょう症が疑われています。70歳以上の3人に1人が骨粗しょう症と言われています。80歳以上になると2人に1人まで増えます。骨粗しょう症は、自覚症状があまりなく、予防や改善するためには時間が必要です。そのため、早めの検査や治療が大切です。



入院中の転倒転落によって骨折等の外傷を負った場合には、入院目的の治療よりも転倒による骨折等の治療が優先されることがあります。その場合、入院期間の延長や患者さんへの負担の増加が考えられます。転倒転落の危険性は、あらゆる場面に潜んでおり、患者さんが転倒転落しないよう、一挙手一投足に気を配る必要があります。そのため、すべての病院職員が転倒転落予防に関わり、それぞれの職種の立場で危険性を確認していくことが求められています。

私は、転倒転落対策チームのメンバーとして、チームの中で転倒予防指導士の役割を果たしていきたいと思います。現在、入院された患者さん向けのパンフレットの作成に取り組んでいます。転倒予防というと、どうしても他人ごとにしてしまい、『自分なら大丈夫』と思いがちです。そこで、わかりやすく転倒転落の危険性を伝え、自分事として捉える機会にするため、当院の転倒転落の実例をもとにイラストを用いたパンフレットを作成しています。完成後には当院のホームページからも見られるようにしていきます。転倒転落のリスクや予防につ

いて患者さんや家族に知ってもらい、転倒転落のない生活を過ごしていただけるよう、転倒転落対策チームがリーダーシップを発揮しながら、病院全体で転倒転落対策に努めていきます。今回の講習会の学びの一つに、『難しいことを優しく、優しいことを深く、深いことを面白く』といった井上ひさしさんの言葉がありました。この言葉を大切に、地域の皆さまや患者さんと転倒転落について一緒に考えながら、より良い医療とケアの提供に向けて活動をしていきます。



# 認知症マフって知ってますか？

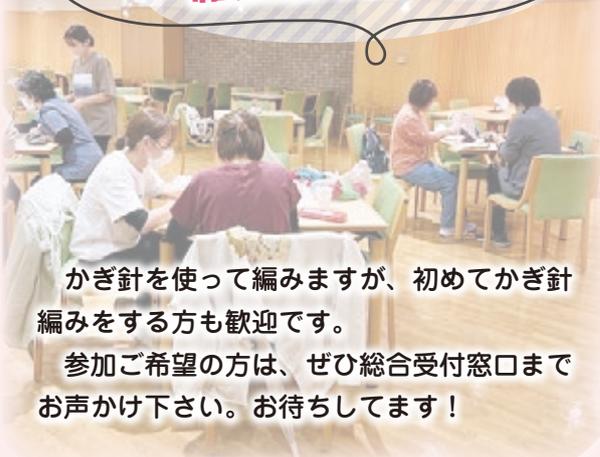


認知症マフはカラフルにデザインされた筒状のニットのハンドメイドの小物です。両サイドから手を入れて温めたり、中のボールや表側のアクセサリを自由に触って様々な刺激を得るために作られています。

認知症の人は認知機能障害から、今、自分がどこにいて、どうすればいいのかわからないことがあり、不安や孤独感を感じ、落ち着かない人も多くいらっしゃいます。落ち着かない手を穏やかに温かく保ち、触覚や視覚という感覚を用いたケアに活用されています。



## 認知症マフを一緒に編みませんか

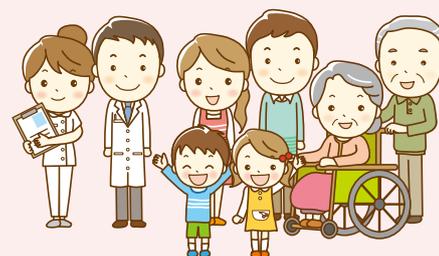


かぎ針を使って編みますが、初めてかぎ針編みをする方も歓迎です。

参加ご希望の方は、ぜひ総合受付窓口までお声かけ下さい。お待ちしております！



マフが活用されてる様子



マフは患者さんだけでなく、医療スタッフも笑顔にしてくれます 😊

病院だけでなく地域にも **笑顔** が広がりますように… 🍷

編

集

後

記

寒さが身にしみる季節となりました。11月1日からは外来のインフルエンザ予防接種が始まりました。予防策の基本は手洗いです。定期的な換気や外から帰ってきたときのうがいも忘れず、感染対策を徹底していきましょう。1人1人にできることは、「感染しないこと、そして感染させないこと」です。今私たちができることを心がけて寒い冬を乗り切りましょう！